

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200078		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	上川郡下川町錦町305番地		
自己評価作成日	平成24年3月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食卓に季節感が感じられるものを提供している。一人ひとりの好みも把握するように努め食事が楽しめるよう工夫している。環境はとてよ自然がたくさんあり、長い冬が終わったら、戸外での活動にも力を入れ焼肉、戸外でのティータイム、おやつ等楽しんでいただきます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年のNPO(非特定営利法人)が運営する幼稚園を改装した1ユニット(定員9名)のグループホームで、地域の敬老会や新年会等の行事参加を通じて地域との連携・交流に努めている。また、友人・知人が訪ねてきやすいように環境づくりに取り組んだり、一人ひとりの生活歴や力を活かして職員と一緒に掃除や雪はね等役割ごとや馴染みの美容室への送迎支援をしている。開設2年目に向けて、職員の研修の充実や地域への情報発信等ケアサービスの質の向上を図る計画をしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室等目につくところに掲示しているが、すべて実践できていない。	事業所独自の理念を作り上げ、業務会議を通じて理念を共有し、その実践につなげている。今後は、さらに理念の共有とその実践に向けて検討している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加する事もある。家族と話し合いをし参加できる利用者には、敬老会、新年会などに参加している。事業所として、1か月に1回の下川町ケア会議に出席し、情報交換、SOSネットワーク研修等参加している。	地域の敬老会や新年会等の行事参加を通じて地域との連携・交流に努めている。また、友人・知人が訪ねてきやすいように環境づくりに取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として出来ていない。これからは地域の人たちにグループホームの支援内容等を知っていただけるよう広く支援活動に努めたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所当時は定期的に会議は開く事は出来ていなかったが、今は2か月に1度開催し、入居者情報等報告し、ホーム内の出来事等報告し話し合いをしている。又これからの取り組み等助言を頂く。	運営推進会議は、町担当者や地域住民、町内役員や町内の福祉施設職員等が参加して開催し、ホームの取り組み状況等具体的に話し合っている。	今後は、年6回を目安に定期的に開催していくことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1か月に1回ケア会議があり、下川町の介護担当者、町立病院、介護関連事業者との情報交換、状況報告、連絡事項などを伝える会議に出席している。	町担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は理解していて、居室のカギ、玄関のカギは施錠していない。職員も理解しており利用者の行動等目を配って見守っている。	日中、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について話し合っている。	今後は、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解する為、委員会を設置する計画があるので、その実践に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等の勉強会には参加する機会があまりなく、それを見過ごす事がないように利用者の態度等に注意を向け、日常のケアの中で意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の必要性はないが、学ぶ機会があれば、研修等に参加させたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行い、理解を頂いている。疑問な点は十分聞き取り理解、対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の説明の中で意見、要望等を聞き又苦情等の窓口を説明している。苦情・要望等の投書箱は設置していない。	家族等の来訪する際に意見や要望等話し合い、運営に反映するよう取り組んでいる。また、苦情等の申し出先の掲示をしている。	今後は、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せる機会を設ける為に苦情箱等の設置を期待します。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に一回会議を開いている。職員の意見、提案等を聞き、全員で話し合っている。	業務会議等で職員の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映できるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回(昨年度は12月)他理事も交え個別面談を実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については機会があり本人が希望した時には参加させる。現在までは1名のみ参加している。毎日のミーティング時、又会議等で話し合いの機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は出来ていない。町内には他に1か所あるが近隣の同事業所とも交流を図る機会を作り、職員同士の交流が出来る事を望んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し困っている事はないかなど、安心感が得られるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度、気軽に話を出来るような雰囲気を作り、良い関係を作るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度個人の状況に応じて、色いろなサービスを提供できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的な能力等を把握し、出来る事は食事のかたづけ、掃除、雪はね等お手伝いして頂いてます。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、等の時には積極的に交流を図り、家族と協力し合い生活の様子などを聞きホームでの生活が安心できるような環境を作っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までのお友達等が訪ねてきやすい雰囲気を作り、おかずなども作って持参して会いに来られます。	本人がこれまで大切にしてきた、友人・知人との関係が途切れないよう来訪しやすい環境作りに心がけている。また、本人の生活歴など把握できるようにアセスメントを充実させていく検討をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、見極めなじみの関係になれるよう、図っている。食事の席などの配慮し不満などが聞かれた時は、時々替える等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後ともそのような状況があれば努める。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ本人の意向を聞き入れ、把握している。又会議の時等検討している。	アセスメントを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、本人の生活歴など把握できるようにアセスメントを充実させていく検討をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から情報を得、把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を把握し、看護師、かかりつけ医等に相談助言を受診時に頂いている。家事手伝いなどは無理をしない程度に行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが本人、家族の意向を確認し個人ケアカンファレンスを必要な関係者と行い介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映できるよう努めている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映できるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	開所当初は出来ていなかったが徐々に計画に基づき実践するように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、付添う、衣服の買物、嗜好品の買物など要望にこたえている。本人が出かけられる状態のときは同行する。理容、美容などの付添いもしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の文化祭などにも本人の状態を回りながら観に行っている。運営推進会議には、区長にも参加していただき、情報をもらっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を継続している。職員が送迎、付添いをしている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、定期受診の支援等で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は出来ている。週3回の健康チェックの時等気になった事は相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは連携が出来ており、栄養相談などにも乗ってもらっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	がん等が見つかった段階で、家族の意向、意見を尊重し添えるよう努力している。又連絡も取っている。地域性等考慮しホームで出来る事等、職員で話し合いをしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族の意向を十分に把握しているとはいい難いが、今後さらに話し合いをしていくよう検討している。また、職員間では、事業所ができる方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の時にいき、質問等に答えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練は行っている。運営推進会議の時にも話し合いはして、今後の訓練時には近隣住民にも協力してもらえよう努力する。下川消防署からの助言もあり、今年は夜間の訓練を予定している。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、今後夜間を想定した訓練を実施する計画がある。	今後は、緊急時に速やかに対応が出来るように救急救命訓練の実施や地域の人達との協力体制構築をさらに進めていくよう期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し気に障らないような言葉掛けに気をつけています。	日常業務を通じて職員間で話し合い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意思、思いを引き出せるような言葉掛けなど行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、本人のこれまでの生活等を考慮し、希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、意思を取り入れ、又意思表示が出来ない利用者に対しては職員が率先して行っている。理・美容室への送迎は必ず行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の都度利用者様の反応に注意し、好き嫌いなどを把握している。又食べたいものがあるか聴きだす努力もしている。盛り付けにも工夫をしたり、誕生日等本人の食べたいものを提供している。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理の準備や盛り付け、味付けや食事を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保には医師、看護師の助言を得て摂取できるよう工夫している。毎月体重を測定しており増減に注意を払う。食べやすい工夫もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助、声をかけ行っている。又義歯洗浄などは行っている。時にに応じて職員が介助する。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを作り時間を見て促し、誘導など行っている。夜間は尿量に応じパッドの種類を考え、辱創防止に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ下剤を服用している。排便リズムなど検討し看護師と相談し、リハビリ体操などに働きかけ参加していただくよう努めている。又野菜のおかずを2品は提供するようにしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分に合わせタイミングを見て入浴の声かけをしている。気持ちよく入浴を楽しめるように入浴剤などを利用している。又体調にも留意しシャワー浴等にも対応する。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。また、拒否の強い利用者にも一人ひとりに沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠リズムを整え安眠できるよう環境整備をしている。また居室でもリビングでも横になれるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携し服薬の管理をしている。服薬は誤飲等がないように職員が手渡し見守りを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事をしていただき張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。していただいたときは職員全員が「有難う」と声かけをする。気候の良い時は戸外でのティータイム、焼肉なども楽しんでます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町民文化祭の鑑賞に出かけたり個別に外食に出かけたり本人の楽しみを作っている。利用者同士でトランプ遊びも楽しんでいます。	開設間もないが、外気浴や戸外で過ごせるように椅子やテーブルを用意している。今後、さらに戸外に出かける回数を増やせるように職員間で検討している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者は考えて使っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したいとの希望がある時は職員がお手伝いしている。又外部からの電話も本人に取り次いでいる。はがき、手紙が来た時も職員が代読をし本人に分かりやすく伝える。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苦情は聞かれていない。現在玄関ホールは改修工事中であり徐々に改善していきたい。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングには、ソファやテーブルが配置されていたり、壁には、行事参加の写真を掲示するなど本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おおむね自分の居場所は決まっており自由に過ごしている。今後とも改善に向けて努力してゆきたい。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今までの生活感が出る場所でもあり家族と意見を出し合いながら居心地良く過ごせているように思う。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、それぞれの身体能力に応じ自立して移動出来ている。トイレも十分な広さのものと狭いトイレとがあり今のところ不自由はないと思われる。		

目標達成計画

事業所名: グループホーム ふるさと

作成日: 平成 24年 3月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 8 13	職員の段階に応じた研修・教育の場が少ない。	ケアサービスの質の向上を目指し研修の機会を確保する。	法人内に研修委員会を設置し、内部研修の充実を図る。	12ヶ月
2	19 27 38	利用者一人ひとりの力と生活歴を活かせるようなアセスメントを職員間で共有する。	本人の大切にしてきたことを支援していく。	本人の日常生活の様子やアセスメントでの情報を朝礼等で共有できるように機会を作る。	12ヶ月
3	1	理念の持つ意味を職員間で共有する。	理念を共有し、その実践につなげていく。	業務会議での唱和や自己評価を実施していく。	12ヶ月
4	3 4 13	ホームの持つ機能を地域に還元する取り組みをしていく。	地域への働きかけを実施し、地域の人達に理解して戴く取り組みをしていく。	・年1回のホームの祭りを開催する。 ・定期的に発行する「たより」を町内会に回覧する。 ・家族や地域の人たちの困りごと等への相談を受けていく。	12ヶ月
5	10	家族や地元の人々の苦情の受付	家族・関係者が意見や苦情を言い表せる機会をつくる。	苦情受付箱を設置する。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。